

2008 年 3 月 18 日

評価担当者：朝川哲司

最終評価項目

1. 学習プログラムの目的（習得すべきスキル、能力等の達成目標など）が、人材育成に関する産業界のニーズに即したものであり、実社会で活かされる教育内容となっているかどうか。

- 三鷹市立中原小学校にて実施されたキャリア教育事業におけるアニメーション制作の取り組みでは、同事業の学習プログラムの目標として、一昨年度及び昨年度に引き続いて、「情報コミュニケーション能力の育成」を掲げており、同目標に沿った授業設計及び学習デザインがなされていた。同目標を三年間続けて掲げた背景には、「情報コミュニケーション能力の育成」は、今後の情報化社会の進展において、必要不可欠の能力の一つであるという認識が深く同校でのキャリア教育事業において浸透していることの証と言えよう。同目標の具現化のために、本職のアニメーション制作とほぼ同様の作業工程を踏襲しながら、先ず企画段階では同校の参加児童の一人一人が自らデザインしたキャラクターとオリジナルのシナリオを相互に売り込む形でプレゼンテーションを行う機会を設けており、またキャラクターとシナリオの一本化の際にも十分な時間を設けてグループ内（同校では5、6人で一グループを形成し、一本の作品の制作を行った）でのディスカッションを率先しており、必然的に情報コミュニケーション能力の発揮と向上が求められる場面が学習プログラムの中に多々用意されていた。また、オリジナルのアニメーション作品の制作段階においても、基本的にどのような作品に仕上げていくかは、各グループ及びその構成員である参加児童に全て委ねられており、作品を期日内に完成させるという責任を帯びながらも、グループ内で毎回コミュニケーションを重ねながら制作作業を推し進める姿がしばしば観察された。以上の観点から鑑みて、中原小学校でのキャリア教育事業は、十分にその学習過程の中で情報コミュニケーション能力の育成を図っており、それ故に実社会で活かされる教育内容となっていた。
- また、昨年度に引き続き本年度においても、「情報コミュニケーション能力の育成」と平行して、第三者である観客（児童の保護者及び本業のアニメーション制作者）から肯定的な評価（面白いと感じてもらおう）を引き出すことができる作品内容にすることが学習目標の一つとして加えられていた。通常の授業と異なり、キャリア教育の一環としてアニメーション制作を実施する以上、参加児童の自己満足で完結する作品作りでは不十分であり、他者の批評に耐えるだけの作品作りが求められた。同校のほとんどの参加児童にとって、初めてのアニメーション制作の体験であったが、同学習目標を遂行するために様々な工夫と努力が制作活動の中で垣間見られたことは特筆される。現実には、プロの批評に耐え得るだけの作品を完成させることは難しく、また小学5年生の認知発達

段階で本職と同等レベルの作品性を求めること自体無理があるが、それでもなおこのような意識を常に持ちながら制作活動に励む姿が観察されたことから、創造性が求められる仕事に対する職業観を十分に養う学習プログラムとなっていたことが高く評価される。中原小学校のキャリア教育の実践の中で観察された創造性を求められる学習活動は、必然的にその参加児童に対して自ら考え行動していくことを導くことに成功しており、このような自ら道を切り開くことができる主体性を持った人材を育てていくことは、今後の産業界のニーズに適切な形でマッチングしていくものと考えられる。

- 次のステップとしては、参加児童の制作活動を通じて得られた知見を実社会に返す仕組みが整えられていくことが望まれる。今後のキャリア教育の理想像の一つとして、産業界から学校への一方的な支援で進められるのではなく、学校から産業界への提言を含むことで、より重層的な社会的な価値を帯びていくことが考えられる。例えば、アニメーション視聴者の高齢化がアニメーション産業では、近年、危惧されているが、現実的な実態として、アニメーションの制作現場に、小学生の持つ美的な感性や物事の認識能力、又はより直接的な表現を取れば、どのような事に興味を持っているのかに関する情報が、ほとんど届いていない現状がある。そこで、このような産業界が求める情報を、逆に教育機関の方へ問う（このような役割をキャリア教育に参加する児童に与えるなど）ことで、産業界にとってもリアルタイムの子供達の生の声を得るという社会的及び経済的な価値を含む貴重な機会を享受できるものと考えられる。

2. 学習プログラムの内容が、単なる職場体験、職場見学にとどまらず、事前学習や事後学習、体験学習などが取り入れられるなど、体系的かつ効果的な内容であるか。

- 既に中原小学校では過去二年間キャリア教育を行ってきた実績を有しているため、現場の担当教員及び外部講師として同授業に参加した教育学の専門家によって、過去の経験と知見から得られた情報に基づいてキャリア教育の各段階において、参加児童に対して習得が望まれる学習項目が入念に設定されていた。過去の実践と同様に、先ず「仕事」という言葉の持つ意味を考える授業から始まり、企画段階から本職とほぼ同様の作業工程を踏襲したアニメーション制作を実施し、作品の完成とその発表会を経た上で、再度「仕事」について議論する機会が設けられており、参加児童が理論的な側面と体験的な側面の双方から十分に職業について自ら考えることが喚起される学習プログラムとなっていた。
- また、アニメーション制作の企画段階と作品の発表段階において、それぞれ本職のアニメーション制作会社に勤務するプロフェッショナルから、かなり厳しい指摘を含む批評を受ける機会を用意しており、常にキャリア教育の一環としてアニメーション制作を行っていることを参加児童に対して意識付けすることが行われていたことから、同校の学習プログラムが、体系的かつ効果的な内容であったことが高く評価される。
- 今後の提言として、現在は完成したアニメーション作品の発表の場が、校内と一部の外部関係者の範囲内に限られているが、周辺地域の学校機関や児童館などの社会教育関連

施設などでの上映会を実施していくことで、中原小学校で蓄積された実績と知見がより広い地域に伝達されていくことが望まれる。このような地域発信の機会を学習プログラム内に含むことで、観客の視点を見据えた作品制作の学習目標が、参加児童に対してさらに求められることにつながり、より深い学習効果と体系的な学習内容が確立していくものと考えられる。

3. 地域において、学校、PTA、教育委員会、産業界、行政機関など関係機関による協力的体制が構築されるなど、事業の一体的かつ効果的な実施を図るための実施体制が確保されているか。

- 一昨年度及び昨年度に引き続いて、中原小学校ではキャリア教育を実施してきた経緯があるため、同校での実施体制は、経験豊かな担当教員を先頭に同校全体で積極的にキャリア教育に取り組む体制が、既に十分に整えられていた。また、これまでと同様に、良い意味で地域の枠組みとしてのPTAや教育委員会、そして三鷹市政が、事務連絡や外部との折衝などの裏方に徹しながら、同校の取り組みを強力に支える様子が観察された。
- 昨年度に引き続き、地域としてキャリア教育の推進基盤を築くために、CCP（クリエイティブ・キャリア・プログラム）研究会が適宜実施され、三鷹市内でキャリア教育事業に参加した学校の代表者（現場の担当教員が中心）が、相互にこれまでの実践活動の中から得られた知見や経験を相互に交換できる場を設けていた。このようなキャリア教育事業の支援の枠組みを地域内で担うことを目的とした試みが実践されている点から鑑みても、事業の一体的かつ効果的な実施を図るための内外の体制が十分に確保されていたものと評価される。
- 過去二年間と同様に、三鷹市周辺のアニメーション制作会社による地域貢献に関しては、絵コンテの企画段階での中間発表会及び完成したアニメーション作品の発表会の双方において、厳しいプロフェッショナルな視点からの指摘を含む批評を行って頂いており、参加児童の職業理解意識の変容に少なからず影響を与えたことが観察されたことから、このような形での産業界からの地域貢献は、非常に有効であり、今後も継続していくことが切に望まれる。
- 改善が望まれる点としては、アニメーション制作に利用したコンピュータ機材（中古の払い下げPCを持ち込んでいる状態）に不備があった際に、現場（中原小学校の担当教員）での対応を求めることが難しく、外部講師の個人的なスキルで解決を図っていく状況が散見された。同校には、年式が新しくまた性能も高いPCを、キャリア教育を実施するには十分な台数分を保有しており、これらのPCにアニメーション制作用ソフトウェアを組み込むことで、外部講師の個人的な支援がなくても、自由に利用できるようなことが切に望まれる。これだけの規模のコンピュータを利用した教育活動であると、どうしてもコンピュータの不調は避けられない面があるが、これまでのアニメーション制作作業では、6台（+予備機1台）を3クラスで使い回す状況にあり、今回、制

作活動の半ばで2台が修理不能の状態になり、急遽、外部講師の個人所有のノートPCを代用した経緯があったことを記しておく。

4. 事業の実施主体である民間コーディネーターが、学校、PTA、教育委員会、産業界、行政機関など、関係機関を十分にコーディネートする能力を有しており、かつ、具体的な事業遂行能力を有しているか。

- ・ 中原小学校におけるキャリア教育事業では、これまでと同様に現場の参加児童と担当教員をキャリア教育の主体者として捉え、その脇を固める役として、学校機関、地域行政、外部協力企業、民間コーディネーターの各々が、それぞれの役割を十分に認識した上で、適切な支援を行う仕組みが完備しており、特に、これまで以上に表に出ることなく黒子に徹しきった民間コーディネーターの事業遂行能力は高く評価される。
- ・ 本年度は、過去二年間の経験に基づいて現場の担当教員の指導能力の著しい向上が見られたことから、このような事情を反映して、これまでの実践と比較して、参加児童の制作活動状況に応じたより柔軟な授業設計がなされたが、このような現場の自発的な対応を最優先し、良い意味で必要最低限の介入しか行わなかった民間コーディネーターの調整能力は特筆される。
- ・ 今後の改善点としては、民間コーディネーターがその重要な役割の一つとして、各々の外部支援機関との調整（特にアニメーション制作会社からの講師の派遣依頼）を図っていく際に、その支援体制やその支援内容が、現場の担当教員にも直接見える形にしていくことが望まれる。今回は、柔軟な授業設計を同校側が取っていたため、多少の授業内容の変更に対しても対応できていたが、次年度以降も同校にてキャリア教育が継続して実施された場合に、担当教員の入れ替わり等による新たに初めて同教育を担当する教員が表れた際に、外部の支援体制がどの程度のものであり、どのような内容の支援が期待できるのかを事前に確認できるようになることは、非常に重要になっていくものと考えられる。

5. 本事業終了後において、学習プログラムの継続的な実施のための自立化の絵姿が明確になっているか。

- ・ 今回の中原小学校にて実施されたアニメーション制作を通じたキャリア教育事業は、二年間の実績が財産となり、十分な学習成果を出しており、今後も継続と発展が望まれる学習プログラムであった。特に、本年度は、現場の担当教員の指導力が惜しみなく発揮され、参加児童の自発的な学びを促しながらも、その先を見越した適切な指導が行われており、アニメーション制作会社との折衝及びコンピュータの管理など周辺的な部分を除いて、外部からの支援がほとんどない状態でも、自立的に同校が持つ資源環境内のみで、十分にキャリア教育を実施できるだけの体制が整いつつあるものと考えられる。
- ・ 昨年度の終了段階で多少危惧された参加児童の代替わり及び現場の担当教員の入れ替わりに関する同校側の対応についても、昨年度に引き続いて一名の現場の担当教員が、本年度もキャリア教育を引き継いでおり、同教員の下に新たに二名の教員が初めてアニ

メーション制作を中心とした同教育に取り組むこととなったが、過去二年間の実績を持つ教員との間で十分なコミュニケーションと知見の交換がなされる場面がしばしば見られ、各教員が担当するクラスの学習成果を比較しても、ほとんど遜色のない状況が観察された。初めてキャリア教育を担当した教員にとって、アニメーション制作を中心としたキャリア教育授業を進行していく上で、荷の重い状況が少なからずあったものと推察されるが、十分な指導力の発揮の機会と授業時間（二時間続き）の確保を行うために、既存の時間割を適宜変更するなど、担当教員間による協力と調整の裁量を学校側が全面的に支援することで、重要な局面においても柔軟な対応を行うことで切り抜けていく様子が観察されたことは特筆される。このような担当教員に状況判断の裁量権を与えていくことは、学校運営を担う立場にとって全幅の信頼の下での英断であったものと思われるが、キャリア教育のような実践活動を必然的に伴う教育活動においては、必要不可欠な要件であり、中原小学校が上記のような学習支援環境を整えたこと自体も高く評価される。

- ・ 以上の観点から鑑みて、本年度と同様に上手く過去の実績とそこから得られた知見と経験が、次の世代（代替わりする児童及び入れ替わる教員）に引き継がれていく道筋が中原小学校にて確立されていくのであれば、今後、同校にてキャリア教育が自立的に実施されていく可能性は十分にあるものと期待される。